

I 実践

1 研究主題

互いに思いやり助け合う児童の育成を目指した人権教育の実践

(1) 主題設定の理由

本校は、『確かな学力，たすけあう心，たくましい体』をもった調和のとれた児童の育成」を教育目標として掲げている。それを受けて，人権教育では，「人とのつながりの中で，人権感覚を養い，社会や生活を見つめながら，主体的に行動することができる児童を育成する」ことを目標にしている。

人は，様々な人とかかわりながら，日常生活を送っている。その中で，一人一人がかけがえのない存在であること，そして尊重し合うことの大切さを理解することは大切である。

そこで，体験的な交流を通して，相手の立場を考え，思いやりや助け合いの精神をもって行動することを身に付けさせるため，本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ・ 道徳や特別活動，総合的な学習の時間における人権教育の充実 【人権に関する授業の実際】
- ・ 豊かな体験活動の展開
- ・ 人権メッセージの応募
- ・ 人権週間を設け，人権教育に力を入れる週間とする。



2 実践内容

(1) 人権週間の実践

ア ねらい

児童の人権感覚や人権意識を育成する。

(児童が発達段階に応じて人権の意義・内容や重要性について理解し，「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり，それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるようにする。)

【人権メッセージ】

イ 期日 9/7(月)～9/11(金)

ウ 人権に関する学習をする。

(ア) 導入(エクササイズ)

- ・ お題トーク
- ・ 「いっしょ」を見つけよう
- ・ サークルコレクション
- ・ 他己(たこ)インタビュー

(人権教育指導資料第37集第3章小さなプログラム)



(イ) 人権に関する授業を発達段階に応じて各クラスで実施。

- ・ 自分もみんなも大切 ―話し方― (低学年用)
- ・ あなたならどうする ―差別・いじめ― (中学年用)
- ・ 楽しい学級(学校)生活にしよう ―いじめ― (高学年用)

(指導資料 24・26・30集より抜粋)

【楽しい学級(学校)生活にしよう(5年生)の授業の実際】

明るくクラスにするためには

- ・ 毎日ニコニコあいさつをする。
- ・ 人とたくさんコミュニケーションをとる。

いじめ・差別をしないクラスにするためには

- ・ 言う前に心の中で考えてから言うようにする。



エ 人権メッセージを書く。(200字程度)

全員に用紙を配布し、それぞれ人権に関するメッセージを書く。友達について、いじめについて、困っている人がいたらどうするかなど様々な内容のメッセージを書くことができた。

(2) 総合的な学習の時間における体験的な活動(第4学年)

4年生の総合的な学習の時間のテーマが「人にやさしい宮田を考えよう」である。そのことから、様々な人の立場に目を向けさせ、共生を図る資質や能力を身に付けられるように、障害の疑似体験や実際に障害のある方の話を聞く活動を毎年行っている。

今年は、2学期に近隣の宮田幼稚園で幼稚園生とふれあい、面倒を見ることで、相手を思いやる心を育むことができた。

また、3学期はアイマスク体験、車イス体験、高齢者体験などの疑似体験や手話の学習を行う予定である。

【あいさつ運動の様子】

(3) その他の活動

ア 異学年集団の交流

(ア) 縦割り班活動

1年生から6年生の縦割りの集団(18集団)を編成し、6年生がリーダーとなって、異学年と一緒に楽しく遊ぶ活動を行なった。



(イ) 交流給食

本校では食育に力を入れており、今年度は、ランチルームを利用し、異学年と一緒に給食を食べる交流給食を行った。

イ あいさつ運動

事務局委員会が中心となり、昇降口でのあいさつ運動を実施した。本校職員や高学年の児童が学校の正門や非常門、昇降口であいさつを呼びかけたり、駒王中学校の有志の生徒や宮田小学校PTAの方の協力を頂き、自宅前や通学路でもあいさつ運動を実施したりする等、地域が一体となって人間関係づくりの基礎となるあいさつの活性化に努めた。

3 成果

- ・人権週間を設けることで、発達段階に応じて人権意識を高めることができた。今年度は導入としてエクササイズを授業に取り入れたことで、楽しみながら学習することができた。高学年では、話し合いに付箋を使用し、活発な意見交換ができた。
- ・異学年交流では、縦割り班活動だけでなく、今年度は、交流給食を行い、異学年で話をしながら楽しく給食をとって交流を深めることができた。

II 今後の課題

本校の課題として、あいさつの声が小さかったり、自発的にあいさつができなかったりする児童が多いため、引き続きあいさつ運動にも力を入れていきたい。

また、交流給食では、なかなか自分から話しかけることができず、教師が間に入って交流する様子が多く見られた。今後も異学年が交流できるよう交流の場を設け、経験を積む必要がある。

III 人権コーナー設置の様子

元テニスプレイヤーの松岡修造さんの名言や、子どもの権利条約カレンダー・人権カレンダーより写真と解説を抜粋した「こころのコーナー」を設置したりした。

